

算ナリ右臨時費、對シテハ事業ノ進
 行ニ應ヒ一時借入金ヲ為シ之ヲ支辨
 乙製造烟草益金ノ内ヲ以テ漸次返
 償スルノ經畫ナリ

州藩

大甲二一七

明治六年十月是日

内閣書記官

内閣總理大臣

Handwritten signature

内閣書記官長

Handwritten signature

外務大臣

Handwritten signature

大藏大臣

Handwritten signature

海軍大臣

Handwritten signature

文部大臣

Handwritten signature

逓信大臣

Handwritten signature

内務大臣

Handwritten signature

陸軍大臣

Handwritten signature

司法大臣

Handwritten signature

農商務大臣

Handwritten signature

別紙農商務大臣外務三大臣請

議清國大冶鐵山、鑛石購入契約

改訂并貸付金ニ関スル件ニ請議

通商議定相成不致

指合案
例文

明治二十年十一月廿七日

附錄 八三一号

今般製鐵所、於清國大冶鐵山、鑛石ヲ購入スル契約ヲ改訂シ期限ヲ三十年ニ延長スルコトニ相成候右大冶鐵鑛非常、多量ニシテ製鐵所、原料トシテ必要ナルハ勿論將來東洋ニ於ル製鐵工業、死命ヲ司ルモノト稱スルモ過言ニアラス今其鑛區、大部分ヲ三十年間我製鐵所、掌裏ニ占有シ得ルコトハ我邦、貿易上ニ重大ノ關係ヲ

有る儀、候乾る右契約改訂、一條件
トシテ清國湖北漢陽鐵政局督辦盛宣懷
ヨリ日本金貨參百萬圓年利六分三
十ヶ年賦、テ日本資本家ヨリ借入度
旨請求有之依テ二三、銀行家ト協
議致候處日本興業銀行ニ於テ引
受可中旨別紙ノ通り願書提出致候
右願書中ニ記載スル條件、何レモ差
支無之其内日本興業銀行發行ノ債
券ヲ政府ニテ引受、コトハ財政上稍ヤ

困難ニ候得共此事タル元來政府ノ製
鐵所ノ利益、為メニスル儀ニシテ亦清國
ニ對スル我邦ノ利權ヲ擴張スル上ニ於テ
棄テ置キ難キ儀、有之候依テ特別ヲ
以テ償金特別會計ノ資金ヲ以テ運
用利殖、為メ一時債券ヲ引受置クモ
ノトシ右債券ハ速ニ之ヲ賣却スルノ途
ヲ求メ若シ未ダ賣却ニ得サルニ先ダテ
償金特別會計資金使用既定計畫ニ
對シ支出、必要ヲ生シタルトキハ一時他

ヨリ繰替エルモノトシ威宣懐ト、契約ハ
此際速ニ確定候様致度右至急閣
議ヲ請フ

明治三十六年十月二十六日

外務大臣男爵小村壽太郎

大蔵大臣男爵曾禰荒助

農商務大臣男爵清浦奎吾



内閣總理大臣伯爵桂太郎殿

追テ別紙借款中ニハ政府ニ関スル條項ト銀
行ニ関スル條項トヲ含ムニ依リ元來ハ之ヲ
區分シテ二契約書ト為スヲ以テ適當トス
ト雖モ其第三款第五款第六款第八款
第十款ハ主テ政府ニ關係スルモ其他ハ政
府并ニ日本興業銀行ニ關係シ之ヲ區
分スルコト頗ル困難ナルノミナラス之ヲ區分
セントスレハ更ニ數回ノ交渉ヲ重ヌルヲ要

スルナルハク後、時日ヲ遷延スルノ虞アリ
且此借款ハ政府ノ中介ニ依リテ成リ政府ハ
一面強ト本借款ノ担保者タルノ地ニ立ツモ
ノナルヲ以テ別ニ契約書ヲ改作ヲ求メス
唯ク便宜上一借款中ニ政府及銀行ニ
関スル二種ノ約定ヲ含マシメタルモノト見
做シ此儘決定シ可然ト相考候

今般製鐵所長官ト清國盛大臣トノ
間ニ於テ大冶鑛石購入ノ清英約相成
候ニ付其一條件トシテ本行ヨリ日本
金貨叁百万圓ヲ年利六分元金三
十年年賦ノ約束ニテ盛大臣ニ貸付可
致者清國命ノ趣敬承仕テ就テハ
左記ノ條項以テ承認被下度
一 盛大臣ノ簽セテルル借用証書ハ清
國ノ國債証券又ハ地方債証券ト
見做シ得ル事
一 本行ノ債券ハ年利五分償還期限三
十年ヲ以テ募集ノ見込存一般ノ

應募額不足ノ場合ニ其不足額ハ
 政府ニ於テ引受相成及事
 但政府御引受ノ分ハ本行ニ於テ
 ナルハ速ニ他ニ賣却ノコトヲ盡
 力可仕候事
 一 契約ノ締結并ニ履行ニ付テハ政府
 ハ可成便宜ヲ與ヘラセ及事
 一 年々償還ノ元利金ハ契約ニ從ヒ
 製鐵所ヨリ直々ニ本行ニ交付アリ
 及事
 一 借款第二款ニ記載スル担保ハ與行
 ニ對スル担保ト定メラセ及事
 右奉 願 上 候 也

明治三十六年十月二十三日

日本興業銀行總裁

添田 壽

大藏大臣男齋曾彌若助殿
 農商務大臣男齋清浦全吾殿
 外務大臣男齋小村壽左衛門殿

秘

大冶借款

第一款 借款金額、日本金貨三百萬圓、定メ三十ヶ年

ヲ以テ期限トナシ年利六厘トス此契約調印ノ日先ツ

百萬圓ヲ交付シ以後三ヶ月毎、百萬圓ヲ交付シ調印

後六ヶ月、交付ヲ了スルモノトス利息ハ毎回金員ヲ

受取りタル日ヨリ起算スルモノトス

第二款 大冶得道湾礦山 附圖 及大冶礦局現有及將來延

長ノ礦石運搬用鉄道礦山用インクライン并、車輛家

屋機械修理廠(現、下陸、在ル修理廠ヲ指ス)ヲ以テ該

借款ノ擔保トス、此擔保ハ該期限内、於テ他國ノ官商
：讓與賣却又ハ貸與スルコトヲ得ス他日第二回借款
ノ擔保ト為サントスルハ應、日本ヲ先トスヘシ
第三款 日本技師(一名)ヲ礦石採掘ノ礦區ニ使用シ該技
師ハ盛宣懷ノ節制ニ歸スヘシ盛宣懷、於テ技監何國
人タルヲ問ハスヲ招聘スルハ日本技師ハ盛ノ命令
：從テ技監ノ指揮ヲ受クヘシ
第四款 此次ノ借款ハ製鉄所毎年購入スルトコロノ礦
石代價ヲ以テ元利ヲ給還シ現金ヲ交付セザルモノト
ス但シ大冶ノ礦脈ハ概テ直立シテ平臥セザルヲ以テ

以後採掘愈深ケレハ工費愈多カルヘキカ故ニ十年ノ
期限滿了スル片ハ更ニ價格ヲ協議スヘシ其地面上ニ
露出シ採掘シ易キ場所ハ大冶礦局ニ於テ須ラク法ヲ
設テ上面ヲ採掘シ以テ双方ノ蒙ル損害ヲ避クヘシ總
テ次ノ十年間礦石採掘ノ深淺難易ヲ以テ前十年ト比
較シ又英國鉄價ノ昂低ヲ考查シ折中シテ礦石價格ヲ
協定スヘシ協議纏マラザル場合ハ双方ニ於テ公正人
一名宛ヲ撰ミ公平ニ定價セシムヘシ倘シ此兩人ノ意
見不合ナル時ハ此兩人ヨリシテ一人ヲ公撰シ断定セ
シメタル上双方共之レニ從ヒ異議アルヲ得ザルモノ

トス

第五款 光緒廿六年締結契約、毎年購入一等礦石額、
 六萬噸ト改ム更ニ減少スルヲ得ス以テ借款金額ニ對
 スル利息ニ十分ナラシムヘシ又最高額ハ十萬噸ヲ超
 過スルヲ得ナシモトス若シ定額六萬噸以外、一萬
 噸乃至四萬噸ヲ増購セントセハ其數ノ多寡ニ應シ一
 年又至テ少キモ四ヶ月前ニ製鉄所長官ハ盛大臣ト相
 談取極ムヘシ
 一等礦石ノ代價ハ一噸ニ付日本金貨三圓トシ其期限
 ヲ十年ト定ム満期ノ時ハ第四款ニ依リ取計ヲヘシ

二等礦石ハ光緒廿六年八月契約第五款ニ據リ取計ヲ
 一噸若シ流車運送實際間ニ合ハサシトハ双方相談ノ
 上期日ヲ延ハスヘシ二等礦石代價ハ一噸ニ付日本金
 貨二圓二十錢ト定ム

第六款 此契約ハ記名ノ日ヨリ起リ光緒廿五年二月及
 廿六年八月締結ノ礦石契約ヲ三十ヶ年延ハスモノト
 ス日本石炭購入條款ヲ廢止シ又礦石代價ハ皆本契約
 ニ依ル外其他續議セザル條款ハ悉ク原契約ニ照ラ
 シ取扱フモノトス

光緒廿六年八月五日締結セシ礦石代價ハ明治卅八年

八月廿九日迄。止ムルモノトス。此日以後十年間、新
契約價格、照ラシ一等礦石一噸、付日本金貨三圓二
等礦石一噸、付日本金貨二圓二十錢トス。

第七款 借款契約、期限ハ三十年ト定メラルヲ以テ
毎年返還スヘキ本金ハ十萬圓ヲ標準トスヘシ。若シ或
年、於テ製鐵所買入礦石ノ噸數代價ニシテ僅、利息
支拂、ミ、是ル時ハ先ツ利息ヲ交付シ此年支拂フヘ
キ本金ハ次年ヲ以テ償却スルモノトス
又製鐵所買入礦石ノ噸數代價ニシテ利息支拂、充テ
ル上尚ホ餘裕アルハ大冶鑛局ハ此餘裕全數ヲ以

テ本金償還額、充テ利息ハ本金ヲ減スル、後ニ之ヲ
減スヘシ

若シ本金漸々減少シ三十年未滿ニシテ償還済ノ計算
立ツハ大冶鑛局ハ數年間本金ノ償還ヲ見合セ以テ
三十年、契約期限ト一致ヲ保ツヘシ。此本金償還見合
セ、數年間ハ礦石代價ヲ以テ利息ヲ支拂ヒタル上餘
裕アルハ製鐵所ハ其額ト現金ヲ支拂フヘシ
三十年滿期ノ時若シ本金、未拂額アル時ハ大冶鑛局
ハ其數ヲ償了シテ契約ヲ取消スヘシ。尤モ製鐵所ハ出
未得ルハ多ク運搬シテ契約期限内、本金及利息全

額ノ支拂ヲ了セシメ原約ノ意ニ一致セシムルコトヲ
努ムヘシ

第八款 製鐵所ハ大冶又ハ清國內ニ於テ製鐵所ヲ設ケ
購入スル所ノ礦石ヲ以テ鋼鉄ヲ鑄鍊スルヲ得サレモ

ノトス

第九款 製鐵所ハ毎回支拂フヘキ礦石代價ヲ以テ直ニ
借款ノ銀行ニ交付シ該銀行ノ領收證ヲ徴シテ大冶礦
局ニ送付スレハ之ヲ以テ償還ノ金額トシテ計算スヘシ

第十款 製鐵所ハ何等ノ船舶ニ拘ハラズ製鐵所雇船礦

石搭載ノ為メ来航スル中輸送スル石炭運賃ハ出来得
ル丈々日本ニ於ケル他會社一般ノ石炭運賃ト平衡ヲ
保タシムルコトヲ努ムヘシ

第五款附屬書面案

契約第五款、毎年製鐵所、賣却スル礦石最高額、拾
萬噸ト定メタリ若シ將來大冶礦局ニ於テ自用、供給
スル外尚ホ餘力アリテ多ク賣却スルヲ得ル時ハ規定
ノ拾萬噸以外ニ更ニ貳萬噸ヲ賣却スルニ其時ハ双方
豫メ相談取極ムヘシ

第十款附屬書面案

契約第十款：於テ製鐵所礦石搭載汽船ノ輸送スル
石炭運賃ハ必ズ日本ニ於テハ他會社ノ石炭運賃ト平
衡ヲ保ツコトヲ力爭スル所以ハ運賃低廉ニシテ盛宣
懷ノ兼轄スル洋郷炭山ノ利ヲ侵害スルヲ慮ルニ因リ
リ故ニ製鐵所ハ出來得ハズ、礦石運搬汽船ノ石炭運
賃ヲシテ他ノ會社ヨリ低廉ナラシメサルコトヲ努ム
ヘシ

為行

内閣書記官

内閣書記官

内閣書記官

九九五

英炭購入豫約ノ件ニ関シ海軍大臣

別紙甲號ノ通牒所載ノ如ク要時局ノ

趨物ト市場ノ実況トニ鑑ミ已ムヲ得

其義ト存候ニ依リ別紙乙号ノ通牒

發旨ニ付テ本件ニ付テハ右購入ノ際

閣下提出ノ如ク為ルニ際ス此般ノ及

通牒也

明治三十二年十月廿五日

大臣大臣 野澤 彌 彦